

あおばだより

Vol.10

あおば薬局

暖かくなってきましたね。
今回のテーマは5～8月に流行する感染症についてです！

感染症とは…

ウイルスや細菌、真菌、微生物などが皮膚や粘膜などから体内に侵入し増殖してさまざまな症状を起こす病気のことです。また、かかっても症状が現れずに、病原体が消滅して終わるもの（**不顕性感染**）や、感染した病原体に特有の症状を示し免疫ができて治る場合もありますが悪化して死亡してしまう感染症もあります（**顕性感染**）。

夏にかかりやすい感染症

◆手足口病

手足の水疱と口内炎ができる**夏風邪**の一種です。胃腸風邪ウイルスからくる下痢の症状を伴います。

感染してから3～5日後に、口の中、手のひら、足底や足背などに2～3mmの**水疱性発疹**が出ます。発熱は約3分の1に見られますが高熱になることはほとんどなく、高熱が続くことも通常見られません。

◆ヘルパンギーナ

発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹を特徴とした急性のウイルス性咽頭炎であり、**乳幼児を中心に**夏季に流行します。**夏風邪**の代表疾患です。

主な症状は高熱（38～40度近い）、上あごの粘膜やのどの奥に水疱ができます。のどが痛むのでつばを飲み込むのが困難になり、よだれが多くなったり嘔吐しやすくなったりします。

◆風疹

初春から夏の終わりにかけて多発します。母親からもらった免疫体があるので、生後6か月ころまではかかりにくいですが、**3～10歳の子供に多い**ですが、この時期の感染をまぬがれて青年期に罹患する人もいます。**風疹は一度かかると免疫ができ、二度とかかることはありません。**

症状は38度前後の急な熱とともに細かい発疹が多数、全身に現れます。また耳の後ろやリンパ節に小指の頭くらいに腫れ押すと痛みます。目の結膜が充血して赤くなります。

プールで感染しやすい病気

◆プール熱（咽頭結膜熱）

主な症状は結膜炎、咽頭痛、発熱です。急な発熱で発症し、咽頭炎によるのどの痛みが現れます。また、結膜炎に伴って充血、目の痛み、痒み、目やに、まぶしくなったり涙が止まらなくなったりします。このほかにも腹痛、下痢、咳を伴う場合もあります。

◆はやり目（流行性結膜炎）

はやり目は**強い感染症**です。このため、家族にはやり目の人がいる場合は二次感染を防ぐことが重要になります。また、子供の場合は学校保健安全法により**登校停止となることがあります。**

症状は涙が出る、目がゴロゴロする、目やにがる、目が充血する、場合によっては発熱もあります。また、ウイルスや細菌が原因の結膜炎の場合、症状が軽ければ自然治癒することもあります。多くの場合は手で目をこすってしまっただけで症状を悪化させてしまいます。

この季節、ウイルスは夏特有な方法で体に侵入してきます。咽頭結膜熱、自称プール熱は特に児童が感染しやすい病気です。病原のアデノウイルスは便や唾液を通じて感染しますが、**特にプールの水から感染する確率が高いとされています。**

このように、プールの後よく目や体を洗わないことや、タオルの貸し借りなどの機会を通じて、人から人へと感染者を増やすのが夏場のウイルスの特徴です。

手洗いうがいをきちんとするのはもちろん、病気の人とタオルや食器などを共有せず別に使うことが大切です！

